

SB623の網膜疾患を適応症とした共同研究について

サンバイオ株式会社(本社:東京都中央区、代表取締役社長:森 敬太、以下「サンバイオ」)は、国立大学法人旭川医科大学とSB623の網膜疾患を適応症とした共同研究に関する契約を締結しましたので、お知らせします。

網膜疾患とは、加齢黄斑変性症や網膜色素変性症に代表され、視機能の喪失につながる重大な疾患です。加齢黄斑変性症は、加齢により網膜の中心部である黄斑に障害が生じ、見ようとするところが見えにくくなる病気であり、欧米では失明原因第1位の疾患となっています¹。また、日本においても人口の高齢化と生活の欧米化により近年著しく増加傾向にあり、2011年のデータによれば推定患者数は69万人と言われています²。網膜色素変性症は、眼の中で光を感じる組織である網膜に異常がみられ、夜盲(暗いところでものが見えにくい)、視野狭窄(視野が狭い)及び視力低下をもたらす遺伝性の病気です。日本においては、人口10万人に対し18.7人の患者がいると推定されています³。

サンバイオが現在開発中のSB623は、一過性に遺伝子導入した成人骨髄由来の間葉系幹細胞を加工・培養して製造したもので、病変組織に投与されると自然な再生機能を誘発することで失われた機能の改善を促すことが期待されている当社独自の再生細胞薬です。当社が日米グローバルで行っている慢性期外傷性脳損傷プログラム・フェーズ2臨床試験においては、統計学的に有意な運動機能の改善が認められ主要評価項目を達成という、良好な結果を得ることができています。

今回の共同研究では、SB623について、旭川医科大学医学部 眼科学講座(柳靖雄主任教授)において網膜疾患のモデル動物を用いて有効性および安全性を評価し、臨床試験に進むための必要なデータの取得を目指します。サンバイオは今後、このような協力を通じて、SB623の加齢黄斑変性症や網膜色素変性症等の網膜疾患を適応症とした開発を進めていきます。

<出典>

- 1: 加齢黄斑変性. 日本眼科学会. http://www.nichigan.or.jp/public/disease/momaku_karei.jsp, (参照 2019-09-20)
- 2: 加齢黄斑変性. 難病情報センター. <http://www.nanbyou.or.jp/entry/2434>, (参照 2019-09-20)
- 3: 網膜色素変性. 日本眼科学会. http://www.nichigan.or.jp/public/disease/momaku_shikiso.jsp, (参照 2019-09-20)

以上

当社グループ(サンバイオ株式会社及び SanBio, Inc.)について

当社グループは、再生細胞薬の研究、開発、製造及び販売を手掛ける再生細胞事業を展開しています。当社独自の再生細胞薬であるSB623は、慢性期外傷性脳損傷及び慢性期脳梗塞を含む複数疾患を対象に開発を進めています。日本においては、東京都庁より「再生医療等製品製造販売業許可」を取得しており、再生医療等製品の製造販売を2020年(2021年1月まで)に実現することを目指しています。東京に本社、カリフォルニア州マウンテンビューに支社を置く当社グループの詳細は、<https://www.sanbio.jp>にてご覧いただけます。

本件に関するお問い合わせ先

サンバイオ株式会社
経営管理部
メール:info@sanbio.jp